



# 水産情報速報版

H24. 12. 7. №1306  
静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行＝指導部漁業振興課  
URL:<http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

## 1. 水産施策要望事項などを承認 —24年度 県漁協組合長会議—

本会では、11月26日 県水産会館において、県内の漁協組合長や水産関係団体役員等 約50名の参加を得て、平成24年度の県漁協組合長会議を開催しました。

会議では、本会荒川会長の主催者挨拶の後、会長が議長となり協議に入りました。

議題内容として、まず、23年度の施策要望事項に対する措置状況、24年度水産予算要望事項に対する措置状況についての実行報告を行い承認された後、本年度各地区から提出された要望事項等の取り扱いについて説明を行い、その承認を得ました。続いて、本年度の施策要望として、とりあげた「①栽培漁業の継続（放流種苗の確保）について、②無所属船舶の漁船登録について、③ウナギ緊急対策に係る支援措置について、④資源管理計画推進による漁業経営の安定に向けて」の4項目をそれぞれ提案者及び関係者からの意見を求めながら協議・検討を行い、さらに、25年度水産予算編成要望「県漁連等水産関係団体が行う指導・委託事業に対する支援について」をあわせた5項目が各々承認されました。

本件については、同日開催の同会議・実行委員会にて、一部修正された内容をとりまとめて日程調整後、関係部局を窓口として要請書を提出していくこととなりました。

## 2. 第13回シーフード料理コンクール優秀作品決まる —全漁連—

今回のコンクールは、「さかなで彩る美味しい食卓～手軽でおいしいおさかなメインの料理を提案～」をテーマとして、プロを目指す学生とお料理チャレンジの2部門が募集され、プロを目指す部門では91校・1,943件、チャレンジ部門では1,847件の合計3,790件の応募作品がありました。12月2日には服部栄養専門学校において、服部幸應氏他6名が審査員、農林水産省お魚大使のさかなクンを特別委員に加え、書類審査入選者16名による実技審査が行われ、各賞が決定しました。

調理の様子や試食審査を実施した結果、プロを目指す部門では「海鮮ひつまぶし（北海道）」チャレンジ部門では「真あじの生春巻き冷や汁風味（宮崎）」が最高位の農林水産大臣賞に選ばれました。なお、本県おさかな普及協議会が推薦し、書類審査を通過した「カンタン！まぐろついですたぁー♡・小西桃奈さん（榛原高校1年）」が全漁連会長賞に入選しました。

## 3. 平成24年度 天草共販事業が終了 —伊豆漁協—

本年度より本会から伊豆漁協に移管された天草共販事業では、11月14日に第7回入札会が開催され、これをもって平成24年入札会のすべてが終了しました。平成24年の取扱累計は、数量98,914kg、本数3,975本（前年比10,663kg増、435本増）、取扱金額119,260,871円、平均価格12,057円（同 4,199,178円増、981円減）となりました。

各入札会での最高価格は以下のとおりとなっています。（第5回入札会は中止）

<第1回>八木沢・トララー・17,690円 <第2回>稲取・まくさ粗改良・24,710円 <第3

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

回>須崎・あらめ・21,390円 <第4回>白浜・沖まくさ（粗）・21,160円 <第6回>大川・まくさ粗改良・23,190円 <第7回>小下田・トララー・19,080円 （生産地・銘柄・価格）

## 4. 平成24年度魚種別系群別資源評価 —水産庁—

水産庁では、資源の回復及び管理を強力に推進していることから、この施策を行っていくため毎年「我が国周辺水域の資源評価」を実施しています。今年度も独立行政法人 水産総合研究センターを代表とした研究機関が資源評価（案）を作成し、漁業者等から広く意見を聴きつつ、全国資源評価会議を開催し、主要な漁獲可能量（TAC）制度対象魚種（8魚種19系群）の資源評価（案）をとりまとめました。今回の評価では、資源水準が高位にあるのは15系群、中位にあるのは34系群、低位にあるのは35系群という結果がまとまっており、主な魚種・水準・動向は、次のとおりとなっています。

マイワシ（太平洋系群）中位・増加、マアジ（太平洋系群）中位・減少、マサバ（太平洋系群）低位・増加、ゴマサバ（太平洋系群）高位・横ばい、サンマ（太平洋北西部系群）中位・減少、スルメイカ（冬季発生系群）中位・減少、スルメイカ（秋季発生系群）高位・横ばい、ウルメイワシ（太平洋系群）高位・増加、カタクチイワシ（太平洋系群）中位・減少、ニギス（太平洋系群）低位・減少、ブリ 高位・増加、トラフグ（伊勢・三河湾系群）中位・横ばい、ヤリイカ（太平洋系群）高位・増加

## 5. ライフジャケット着用推進ガイドラインの改訂

漁業者のためのライフジャケット着用推進ガイドラインがこのほど改訂されました。このガイドラインは、平成20年4月に1人乗り小型漁船にライフジャケットの着用が義務化されたのを受けて、水産庁、全漁連、大日本水産会が漁業者に常時着用してもらうため作成したのですが、前回の作成から4年が経過し、様々な課題が明らかになってきたこともあり、本年10月に第2版として改訂されました。改訂のポイントは、ライフジャケットを着用し命を守ることは、自分のためだけではなく、浜で待つ家族やいざというときに身を挺して捜索に加わる仲間のためでもあるという視点が追加されたほか、選び方や着用での工夫と着用後の洗浄等と呼びかけている点などです。漁業に従事する皆様におかれましては、引き続きライフジャケットの常時着用に取り組みされるようお願いいたします。

なお、改訂されたガイドラインは、下記の水産庁ホームページでご覧になれます。

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/koho/bunyabetsu/pdf/lj\\_gaidorain.pdf](http://www.jfa.maff.go.jp/j/koho/bunyabetsu/pdf/lj_gaidorain.pdf)

## 6. 漁業高等学園生徒が乗船 実習船「やいづ」が出港

県漁業高等学園の第43期生10名を乗せた実習船「やいづ」が11月14日焼津漁港を出港し、太平洋マリアナ海域へ約1か月の乗船実習航海に向かいました。この乗船実習では、将来生徒達が現場で即戦力と成り得るよう、漁労技術などの習得し、入学以来学んだ理論を実際の現場で確かめるとともに、船上での協調性や責任感も養うことを目的としています。

実習船は、鹿児島で活餌を積み込んだ後、実習海域に向かい、サイパンや沖縄に寄港した後、12月17日に焼津へ帰港する予定となっています。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう